

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4570500183		
法人名	医療法人相愛会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	宮崎県小林市大字北西方66-3 (電話) 0984-25-0099		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】（平成21年1月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成12年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤11.5人, 非常勤1.376人, 常勤換算12.88人	

（2）建物概要

建物構造	準耐火鉄骨 造り		
	2階建ての 1階部分		

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	192 円	昼食 294 円
	夕食	294 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成21年1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3	要介護2	5
要介護3	4	要介護4	5
要介護5	1	要支援2	0
年齢	88.6 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人相愛会桑原記念病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小林市郊外に位置し、周辺は、特産品の観光梨園など山や田園に囲まれた環境にある。また、ホームは、同法人の老人保健施設の建物と隣接しており、各種行事や災害訓練等は一緒に行っている。職員は、ホームの理念に沿って、利用者がいきいきと生活するために内部研修等に力を注ぎ、質の向上を図りながら支援できる体制を作り上げている。また、地域住民への理解や協力を得ていくための広報活動や、地域の子ども会とのふれあいの機会を設けるなど、地域性を高めていくための工夫も見られる。利用者だけでなく職員もいきいきとした笑顔が見られる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいでは、子ども会とのふれあいや十五夜祭への参加などを積極的に行っている。市町村との連携は、管理者が積極的に向かい合い姿勢が見られる。食事は、夕食だけをホームで調理している。また、災害対策は年5回の訓練を実施しているが、いずれも地域住民の参加は見られない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者など一部の職員のみが作成するのではなく、他の職員も内容検討に参加しているため、自己評価の内容も十分に把握できている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月ごとの会議を定期的開催している。参加者には、行政や地域包括支援センター、地域住民代表や家族代表の参加もあり、外部評価実施後にはその内容の報告と、委員からの意見を集約するようにしている。また、ホームの運営や利用者支援の方法についても、委員からの客観的な意見を聞きながら参考とする場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	これまでに家族からの苦情や特別な意見はなく、意見箱への投函もない。ホームでは6か月ごとに家族面談を行ったり、緊急時には随時電話での報告を行い、家族の来訪時には必ず近況報告をするようにしている。日ごろから職員は、家族とのコミュニケーションを大切にしながら利用者支援に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育園や子ども会とは、そば打ちや十五夜祭などの行事を通じて交流を図るようにしている。また、ホーム便りを地域住民に回覧するなどして、地域理解を得るよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念が箇条書きでわかりやすくつくられている。理念には地域との交流も掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示してあり、職員は月1回の会議や利用者支援の都度、理念の確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園との交流や、子ども会とのそば打ちなどで地域との交流を図っている。また、ホーム便りを地区住民に配布するなど、地域性の向上に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、外部評価の意義を理解し、自己評価についても全職員が内容検討に参加し把握できるようにしている。また、前回の外部評価における改善点についての検討にも参加している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2 か月ごとの会議には、地域代表者や行政からの参加もあり、ホームでの支援や運営のほか、外部評価の結果やそれに対する委員からの意見もあり、ホームのサービス向上のための検討がなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市町村担当者との連絡調整に当たっている。電話だけでなく直接出向いてホームの運営等に関しての問い合わせなどを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のことに関して、緊急的な事については電話で随時報告している。また、家族来訪時に状況を報告したり、半年に一度の家族面談を行うなど、家族とは密接な連携を図るよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで特に苦情などの事例はなく、意見箱にも投函はないが、家族とのコミュニケーションの中で日ごろからさまざまな意見を引き出すように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には1 か月程前から引継ぎを行い、利用者になじんでもらうようにしている。また、異動の際には紹介や報告により、利用者に動揺のないようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修には、全職員が毎月定期的に参加し、外部研修にも積極的に参加できるようにしている。また、研修報告書も詳細にまとめられ、他の職員への報告もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西地区の連絡協議会の研修会参加や、法人グループの3つのグループホームとの意見交換会を定期的に行い、また、他事業所との情報交換も随時なされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入居された利用者には特に時間をかけて声かけや会話をするように努め、夜間に不安のある方には添い寝をしたり、自宅からなじみのものを持ってきてもらうなどの取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に昔の話を聞いたり、畑作りや漬物漬けなどの方法も学びながら共同生活の中で、利用者を支援できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、業務の途中であっても手を止めて、利用者に寄り添う時間を作るようにしている。また、訴えのない利用者や帰宅願望のある利用者にも、声かけしながら支援するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議は、利用者ごとに定期的を実施しており、利用者ごとの担当職員が定期的または随時評価した支援の内容を、サービス計画作成担当者がプランに位置づけるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランに基づいた支援のモニタリングは、毎月実施している。また、プランの見直しは3か月ごとに行っている。認知症診断の参考として長谷川式スケールも6か月ごとに実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診は職員同行を基本としている。また、地域密着型の短期入所や通所介護事業も、指定により受け入れる体制がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、それぞれの主治医があり、ホームとの健康管理等についての連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム開設以来終末期の看取りはないが、今後のニーズによっては、主治医や法人の医療機関との連携についての確認はできている。また、職員も重度化や終末期に対する支援については、内部研修等で学習している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には、内部研修において、個人情報や守秘義務についての研修をカリキュラムに位置づけて実施している。また、さりげない声のトーンで利用者への声かけもできている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿った支援の中においても、利用者一人ひとりの生活のペースに合わせることを基本としながら、利用者が散歩したいときは付き添うなど、個別のニーズに合わせた支援ができている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の朝と昼は併設の老人保健施設で準備したものとなっているが、職員は持参した弁当と一緒に食べている。夕食は、ホームで調理したものを、全員が同じテーブルを囲み食事をしている。食事の準備や後片づけを、利用者はできる範囲で職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午前と午後に設定してあるが、利用者のニーズや希望に沿って、入浴の時間や回数を柔軟に調整している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりができる清掃、食器洗い、食事の準備や後片づけ、菜園の管理、プランターの花の水かけなどの役割を持っていただくことで、楽しみごとの支援の一助としている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへの買い物や墓参り、近隣への散歩、行事的外出など、さまざまな形での外出支援ができています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーにより無断外出等を防止している。鍵をかけないことによる利用者への人権配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年5回の災害時訓練は、併設老人保健施設との合同訓練となっており、消防署の立会いもある。ただ、地域住民の参加や連携はできていない。	○	災害時の避難誘導や迅速な対応は、地域住民の参加や理解が不可欠なので、地域住民との連携や、訓練の際の見学、参加への呼びかけを積極的に行ってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎回記録しており、併設老人保健施設の栄養士との連携もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用するトイレや浴室、ホールなどは清潔かつ整理整頓が行き届いており、利用者が安心して過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、一人ひとりの個性があり、使い慣れたタンスなどが持ち込まれて、こざっぱりとした空間になっている。ただ、居室入り口の引き戸の一部が透明になっているため、利用者からも塞いでほしいとの希望がある。	○	引き戸の一部の透明部分は、利用者からの意見も尊重して、違和感のない工夫をしていただきたい。

※  は、重点項目。